

与論島をどう活性化すればいいか？

1114600467 法文学部 人文学科 加藤華子

私は、高校一年生のときに香川県から鹿児島県に引っ越してきました。鹿児島県に越してきてからたくさんの離島があることを知り、大変興味を持っていました。与論島の存在を知ったのも高校生のときです。鹿児島県に住んでいるのだから、たくさんの離島へ行ってみたいとそのときから考えていました。大学に入り、友人から実際に与論島に行く講義があるということを教えてもらい、今回この『島のしくみ』という講義を受講することになりました。

初めて与論島に行き、最初に感じたことは島の小ささです。私たちが乗ったフェリーは、奄美大島、徳之島、沖永良部島、そして与論島に停まったので、島の大きさがだんだん小さくなっていく様子がわかりました。次に海のきれいさに驚きました。干潮時にしか現れないという百合ヶ浜は今まで見た海の中で、最もきれいだと思います。また、早朝の海に友達と出かけたところ、地元の人たちが砂浜のゴミ拾いをしていました。このような素敵な島の人たちがいるからこそ子のきれいな海があるのだと感じました。また、道を歩いていたら、地元の人たちが話しかけてくださり、本当に“あったかいひと”がたくさんいる島だと感じました。

実際に与論島へ行って、感じたことからこの島より活性化するにはどうしたらよいか考えてみました。与論島には、漁業や農業などしている方もたくさんいらっしゃいますが、話を聞く限りではやはり現状はかなり厳しいということがわかりました。そこでやはり目立つのが観光業です。今も地元の観光課の方が様々な工夫をされていますが、実際に、授業ではありましたが観光客目線で島を歩いたところ改善すべきではないかという箇所がいくつかありました。まずはお土産です。与論島のおみやげは島有泉などの焼酎や菓子など与論島独特なものが売っておりとてもいいと思いました。しかし、店が観光客向けのお土産店と、地元の方に必要である、電気屋やスーパー、郵便局などが同じ通りに並んでいました。ヨロン島観光協会が出版しているヨロン島ガイドマップには銀座通り、中央通と書いてある道へ行ってもその名を疑ってしまうような通りになっていました。よって、もう少しだけ。観光客向けの通りを作った方がよいと思いました。そうすれば、観光客も買い物がしやすく便利で、また来たいと思う人が多くなるのではないのでしょうか。そして、その観光客向けに作った通りを地元の人も行きたくなるような通りにすれば、観光客と地元の人たちがもっと関わることができると思いました。

観光客を増やすためには与論島までの移動手段をフェリーから飛行機にすることで。今回のこの講義ではフェリーで約 20 時間かけて与論島に行きました。フェリーの中では、寝る、食べる、お風呂に入る、ずっと外にいる、などしかできることがありませんでした。大変揺れるため、字はあまり見ない方がよいと思いました。飛行機で与論

島までは、1時間ほどで着くそうです。しかし今のままでは、飛行機代が高いため、フェリーを観光客は選んでしまうと思います。そうするとかなりの体力が必要なため、もう一度来たいと思う人は少ないと思います。ヨロン島観光協会のかたがおっしゃっていましたが、鹿児島市からの飛行機代は安くできる方向で話が進んでいるようです。このままうまく行けば、鹿児島市内からより多くの人たちが与論島へ観光に行くのではないかと思います。鹿児島市だけではなく、ほかの県からの航空費も安くできるよう、努力が必要だと思います。鹿児島県の与論島にしかないもの、百合ヶ浜や島の人たちのあたたかさをもっとおおくのひとがしることができれば、より観光客が増え、与論島は活性化していけるでしょう。

